

エクシオグループ株式会社

グリーンボンド・フレームワーク

1. 資金使途

| | |
|----------------|--|
| 資金使途の概要 | 木質バイオマス発電所建設、木質バイオマスガス化の技術開発及び木質バイオマスガス化発電所建設並びに太陽光発電設備建設資金に充当予定 |
| 適格性基準 | 以下の基準に適合することを検証します。 ① 国際資本市場協会（ICMA） グリーンボンド原則 2021年版 ② 環境省 グリーンボンドガイドライン 2020年版 |
| 長期ビジョンにたった投資方針 | <p>■当社の最大の存在基盤は、技術力です。どのように時代が変わっても、常により優れた技術、一步進んだ技術を追い求め、それを自分たちのものにしていく企業集団を目指しています。そして、培った技術力は、人々のより豊かな生活環境をつくりだすために発揮されることが必要です。このことを通じて、社会により大きな貢献を果たし、社会から価値のある存在として認められる企業であり続けたいと考えています。</p> <p>■当社は、中期経営計画で ESG 経営の実践により企業価値向上を実現し、SDGs の達成に貢献することを掲げ、事業を通じた社会課題の解決に取り組めます。</p> <p>環境破壊・気候変動の課題に対しては、森林の地球環境保全と循環型社会(木の循環リサイクル)を意識し、地産地消による次世代エネルギーの創造としての取り組みである“木質バイオマス発電所建設”及び熱電併給型の”木質バイオマスガス化発電の技術開発”に注力しております。また、太陽光設備の建設事業にも積極的に取り組んでおり、その一例が、茂原太陽光発電所建設工事であり、2023年度の完工に向けて建設中です。</p> |
| 資金の調達方法と投資先 | <ul style="list-style-type: none"> ・調達方法：100億円の債券発行により資金調達をします。 ・投資先： 自社木質バイオマス発電所建設、木質バイオマスガス化技術開発及び木質バイオマスガス化発電所建設並びに他社太陽光発電設備資金 |

2. プロジェクトの評価及び選定のプロセス

| | |
|----------------------------------|--|
| 適格プロジェクトの選定プロセス | <ul style="list-style-type: none"> ・中期経営計画に基づき取り組んでいる木質バイオマス発電所建設、木質バイオマスガス化の技術開発及び木質バイオマスガス化発電所建設並びに太陽光発電所建設資金について、グリーンボンドによる調達資金の使途となる適格性の評価及び選定を環境本部、財務部にて行います。 ・プロジェクト選定の最終承認は取締役会が行います。 |
| グリーンプロジェクトが環境に与えるネガティブな影響とその対処方法 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 想定されるネガティブな影響 <ul style="list-style-type: none"> ・ 森林伐採による CO₂ 吸収能力低下 2. 影響緩和対応 <ul style="list-style-type: none"> ・ 域内で発生する自然木を原料とする木質系バイオマスのみを燃料とし、資源を有効活用すると同時に、植林による木の循環リサイクルが森林の活性化ならびに CO₂ の吸収力の維持向上につながる。 |
| 適格プロジェクトの選定基準およびプロセスの開示方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトの選定基準および選定プロセスに関しては、当社ウェブサイトまたは、第三者評価レポートで投資家に開示予定です。 |

3. 調達資金の管理

| | |
|--------------------|---|
| 調達資金と資産の紐付方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・調達資金は木質バイオマス発電所建設、木質バイオマスガス化発電の技術開発及び木質バイオマスガス化発電所建設資金並びに太陽光発電他社設備（他社設備のため工事立替資金を資金充当額とし、工事代金の入金分を資金充当額のマイナスとして計上）に全額紐付けられます。 |
| 調達資金の追跡管理の方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・調達資金は木質バイオマス発電所建設、木質バイオマスガス化発電の技術開発及び木質バイオマスガス化発電所建設並びに太陽光発電他社設備資金に充当します。 ・調達された資金の充当と管理は当社財務部が行います。グリーンプロジェクトへの充当状況を四半期単位で追跡管理します。調達資金の充当が決定されるまでの間は、資金と等しい額を銀行預金に一時的に預入し、現金及び現金同等物にて管理します。 ・調達資金の管理については、専用の帳簿を作成し、法令に則り保管します。 |
| 追跡管理に関する内部統制及び外部監査 | <ul style="list-style-type: none"> ・調達資金を木質バイオマス発電所建設、木質バイオマスガス化発電の技術開発及び木質バイオマスガス化発電所建設並びに太陽光発電他社設備資金に紐づけることを取締役会で決議し、調達を行います。 ・充当状況及び未充当資金は四半期単位で追跡管理を行います。現金及び現金同等物として管理を行い、社内の内部監査において適切に管理されていることを確認します。 |
| 未充当資金の管理方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・未充当資金が発生することが明らかになった場合は、プロジェクトの評価及び選定のプロセスに従い、適格基準を満たす他の対象プロジェクトを選定し、資金を充当します。 ・調達資金の充当が決定されるまでの間は、調達資金は現金または現金等価物にて管理する旨を当社ウェブサイト等で投資家に開示の予定です。 |

4. レポーティング

| | |
|---|---|
| 資金の充当状況に関する開示の方法及び開示頻度 | <ul style="list-style-type: none"> ・調達資金の全額が対象プロジェクトに充当されるまでの間、当該調達資金の充当状況について、当社ウェブサイト上にて、年次で開示の予定です。 ・調達された資金は起債後5年以内に全額を充当予定です。 ・グリーンボンドが償還されるまでの間、JCRより資金の充当状況についてグリーンボンド評価のレビューを受ける予定です。 |
| インパクト・レポーティングの開示方法及び開示頻度 | <ul style="list-style-type: none"> ・当社ウェブサイト上にて、年次で開示の予定です。 ・グリーンボンドが償還されるまでの間、JCRより環境改善効果としての開示内容等のレポーティングの状況を主としたグリーンボンド評価のレビューを受ける予定です。 |
| インパクト・レポーティングにおけるKPI(Key Performance Indicator) | <ul style="list-style-type: none"> ・環境改善効果として以下のインパクト・レポーティングを予定しています。 <ol style="list-style-type: none"> ① 建設・設置した施設の各概要（施設の処理能力） ② 建設・設置した施設の稼働開始後年間発電出力実績（MWh/年） ③ 年間発電出力実績に基づく年間温室効果ガス排出減量（tCO₂/年） |